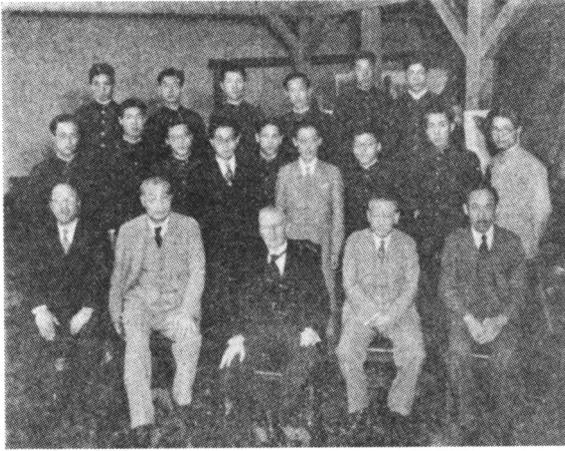


⑱ シュプランガー来校

昭和十二年十月一日、ドイツの哲学者・教育学者シュプランガー (Eduard Spranger: 1882~1963) が本校において講演した。『東京美術』第十二号には小塚新一郎訳の講演録「文化と国民性」と次の記事が掲載されている。

シュプランガー博士を迎へて

かねて日獨文化交流教授として來朝中であつた獨逸國の硯學、文化哲學の權威、エドウアルト・シュプランガー博士は、東京帝大初め全国各地の官私立諸大學及び諸學會に於て講演及び連續講



シュプランガー来校記念

前列左より多賀谷健吉、結城素明、シュプランガー、芝田徹心、松田義之

(『東京美術』第12号より転載)

義、演習をされてゐたが、その御多忙中にもかゝらず去る十月一日特に本校師範科の招聘に御承諾頂き親しく博士の御講演に接することが出来た。博士は午前十時頃より本校參觀、校長先生始め、結城「素明」、多賀谷「健吉」、其他諸先生の御案内、御説明に終始御氣嫌よく、殊に日本畫教室の制作、師範科の夏季課題の制作品蒐集品等に感嘆して居られた様に拜察された。午後一時より第一講義室に於て御講演、はじめに博士の愛弟子ドクトル小塚新一郎氏を博士の通譯並びに案内者として御借しされた事に付いて校長先生に御禮申され、次で「文化と國民性」の題名のもとに御講演をたまはつた。この講演内容は、岩波版「文化哲學の諸問題」にそのまま掲載され、文庫に寄贈されてゐる。

尙口繪の寫眞(挿図参照)は、シュプランガー博士と師範科三學年の記念撮影である。

⑲ 文化勲章制定

昭和十二年二月十一日に文化勲章が制定され、同年四月二十八日に長岡半太郎、本多光太郎、木村榮、佐佐木信綱、幸田露伴、岡田三郎助、藤島武二、竹内栖鳳、横山大観の九名が最初の受章者となつた。

⑳ 現代日本画名作展覧会

昭和十二年八月二日より同月七日まで東京で第七回世界教育會議が開催され、その期間に合わせて帝國教育會は東京府美術館で現代日本画名作展覧會を開催することになった。本校はこれに全面的に